

第三回 長期留学報告書

三上 沙織

メキシコではハロウィンや死者の日も段々と過ぎ、次はクリスマスへと向けて町中の飾りが飾りつつあります。11月の頭には死者の日という日本ではお盆に当たる行事が行われたのですが、メキシコらしい一面を伺うことが出来た素晴らしい行事でした。お盆のように亡くなった方に思いを馳せる日は日本にもありますが、現代化が進み中々予定を合わせるのが難しくなった今でも、こうして家族や親戚みんなが集まって、一緒に過ごす時間をできる限り作ろうとするその姿勢に、どこか懐かしいような、羨ましいような気持ちも抱いてしまいました。

今学期も終わるまで残りわずかとなりました。十二月の中旬に大学は終わります。学期末である最近では校外実習へ出向くことが多く、メキシコ各地を巡ってきました。北部にかけてメキシコで代表的に生産される作物であるトウモロコシや、大豆、豆類などの産地に行ったり、アボカドやオレンジ、マンゴーなど日本へも多く輸出されている太平洋沿岸の地域に足を運んだり、生産地域や企業の見学へ行きました。卒業論文のテーマの一つに、メキシコとアメリカの関係を上げようと考えています。どの会社を見ても、授業を受けていても、最終的にはアメリカがどのような要求をしているのかに必ず繋がります。普段生活をする中でも、スーパーに行けばアメリカが親会社であったり、留学先の大学における様々な制度もアメリカが由来であることが多々あります。

昨年、アメリカの大統領選挙があった際、トランプ大統領の件でアメリカとメキシコの関係が大変話題になりました。国交を断絶するというような発言も多々見られましたが、本当に両国は農業の面だけでなく経済や生活全ての面からみて不可能だと考えています。日本にいた際には、メキシコのことは全然知らずアメリカの意見ばかりしか耳に入ってきてませんでした。メキシコからの不法移民が問題だ、麻薬を取り締まるには関係を断ち切ることが必要だ、などと片方の意見しかニュースで耳にする機会しかなかったです。ですが、メキシコに限られたことではありませんが、その国に長く住むことで今まで気づけなかった意見や環境などが見えてくるのは留学の素晴らしい利点だと改めて思うことが出来ました。

この留学では、ただ授業を受けて知識を付けるだけでなく、その国に住んで感じる雰囲気や情勢、公用語のスペイン語など本当に多くのことを吸収させてもらうことが出来ました。自分の知らないところでも、振り返ってみれば成長していたと思うことも沢山あります。辛いこと、嬉しいこと、生きていれば様々な出来事があるのは当たり前のことですが、この一年間とても生きていた気がします。日本では起こりえないような様々な困難が名刺子ではありました。ですが、周りの力も借りながらですが、自分自身の力でそれを乗り越えることが出来た経験は、今後生きていく上でもかけがえのない大切な糧になりました。

冬休みを挟んで二月に帰国するまで残りわずかとなりました。この休み期間では、卒業論文にむけての聞き取り調査や日墨協会でのインターン活動などが控えています。残り少し

も、勉強面や治安に関して気を抜かずにしっかりと頑張りたいと思います。

そして、これまで留学中さまざまな面でサポートしていただいた山田さん、マイさんをはじめ国際協力センターの方々には重ねてお礼を申し上げたいと思います。この一年間、本当にありがとうございました。困ったときにはいつでも親身になってサポートをしていただき、相談をさせていただきました。皆さんの支援のおかげで、今ここで安心して守られた中勉強することが出来ています。またいつも応援してくれていた家族、友人すべての方にも感謝を伝えたいです。この一年頑張ることが出来たと胸を張って帰れるよう、残りの数カ月も精一杯の努力をして悔いの残らないように過ごしていきます。